

# AMDA菅波代表インドへ 人材、物資の輸送路確立

## スマトラ沖大地震支援

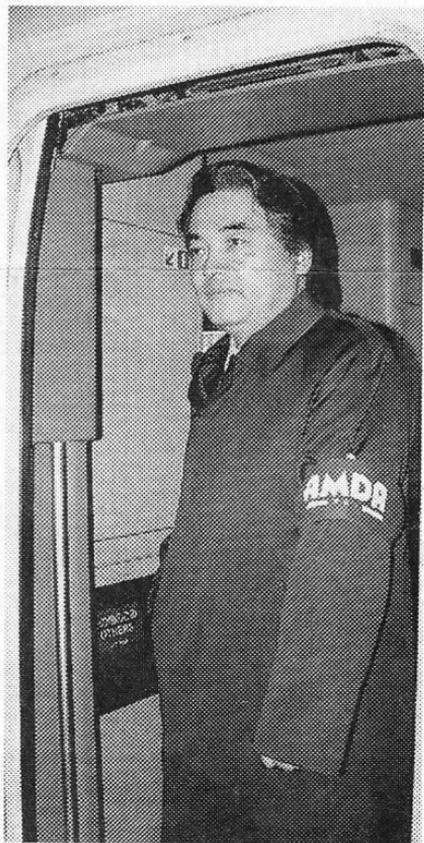
6日早朝にインド・マニパールに向けて岡山を出発した国際医療援助団体AMDAの菅波代表

(58)は離日前、毎日新聞

の取材に、目を追って被害拡大が伝えられるスマトラ沖大地震での救援活動について、「これまでにAMDAが作り上げた多国籍ネットワークの総決算となるだろう」と語った。今回、AMDAは海外28支部のうち、日本を含めた10カ国から約80人という最大規模の体制で支援にあたっている。

インドには、まだAMDAのほかには政府やNGOなど日本からの支援は入っていないという。インドで津波の被害が大きかったのは東海岸部だが、AMDAのインド支部はその反対側に位置する西海岸部のマニパールにある。このため、人材と物資を効率的に被災地に送るための輸送ル

ートの確立など、後方支援体制づくりが急務なことから、菅波代表の現地入りが決まった。菅波代表は現地最大の病院を持つマニパール医科大学やネパール、バングラデシュ支部との間で2日間の会談を行い、10日夕方に帰国する予定だ。



関西空港に向け、新幹線に乗り込む菅波代表―JR岡山駅で